

(幼稚園 環境)

## 幼児の好奇心や探究心を育むための援助の工夫

—身近な自然とのかかわりを通して—



浦添市立宮城幼稚園

崎原 聖子





# 目次

I	テーマ設定理由	1
II	目指す子ども像	1
III	研究の目標	2
IV	研究仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	幼児期における自然とのかかわり	3
2	幼児の好奇心や探究心とは	3～4
3	好奇心や探究心を育む援助の工夫	4
4	環境作りの工夫	5
5	教材や教具の工夫	5
6	自然体験に関する年間指導計画	5～10
VII	保育実践	11
	検証保育 実践事例1	11～13
	検証保育 実践事例2	14～18
VIII	研究の考察	19
1	作業仮説(1)の検証	19～20
2	作業仮説(2)の検証	20～21
IX	研究の成果と課題	21
1	成果	21
2	課題	21
	おわりに	21
	主な参考・引用文献	21



# 幼児の好奇心や探究心を育むための援助の工夫

— 身近な自然とのかかわりを通して —

浦添市立宮城幼稚園 崎原 聖子

## 【要約】

本研究は、身近な自然とのかかわりを通して子ども達が発見や感動を味わい、好奇心を抱いたり探究していく心を育むことを目指し、援助の工夫を試みたものである。直接体験が多く持てるような指導計画の作成及び教材や教具の工夫をし保育実践していく中で、身近な自然への興味関心を高め、様々な角度から自然にふれる姿が見られた。

## キーワード

□ 自然体験 □ 年間指導計画 □ 好奇心 □ 探究心 □ 教師の援助

## I テーマ設定理由

近年、情報化の急速な進化にともない、テレビやインターネット、テレビゲーム等の普及は著しく、幼児を取り巻く生活環境にも、大きな影響を与えている。

幼児もメディアを通して沢山の映像を目にし、間接体験を通して多くの情報や知識を得ることができるようになった。しかし、その一方で自然とふれあう直接体験を通して、自然の美しさ、不思議さに気づき、驚きや発見、感動など心を動かす体験が減少してきているといわれている。「心を育む時期」といわれる幼時期に、「もっと知りたい」「なぜだろう」と好奇心を抱いたり、探究していく心を培う上で自然との出会いは大切だと考える。

日々の保育の中で、子ども達は木登りをしたり、昆虫を捕まえようとじっと目をこらしたりと自然とのかかわりを楽しんでいる。しかし、昆虫に関する知識を持っていても、直に触れたり遊んだ経験が少ない為、草原に散策に行くが道具がないと遊べない、飽きてしまうといった行動も見られる。

5月に本園の子ども達を対象に自然体験に関するアンケート調査を行った。その結果、降園後家の中で遊ぶ子が全体の55%を占め、遊びの内容においてテレビ視聴、ゲームを合わせると46%と高かった。また、虫や小動物が好きな子は86%と多いが、公園で遊ぶ内容をみると遊具が47%と最も多く、虫捕りや草花遊びなど自然とふれあう遊びは18%で、自然体験が不足していることを感じた。

幼稚園教育要領、領域「環境」のねらいに、「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。」ことが明示されている。環境にかかわることを通して発達していく幼児期において、自然に触れて生活することの意味は大きい。自然との出会いを通して、心の安らぎや豊かな感情や好奇心、思考力や表現力を養っていく。その環境を教育内容として教師が意図的、計画的に取り上げていくことが豊かな経験のために重要であり、教師は幼児の好奇心を広げ、探究心を深めるように環境を設定し、援助していくことが大切だと示されている。

これまでの私の保育実践を振り返ると、自然を通して様々な気づき、発見ができ、感動体験ができるような活動の計画、教材の工夫など子ども達が自然に対して興味関心が持てるような環境作りを行っていただろうかという反省点がある。

子ども達が、身近な自然とふれあう直接体験の年間指導計画を作成し、環境作りを行い、自然とどう出合わせるかの援助の工夫をすることで、自然に対して興味関心を持つようになることを考える。その中で、不思議だな、面白い、なぜだろう等と感じる感動体験を重ねていくことで、好奇心や探究心を育てていくのではないかと考え、本テーマを設定した。

## II 目指す子ども像

身近な自然とふれあう中で、発見や感動を味わう子。

### Ⅲ 研究の目標

「好奇心」や「探究心」を育むために、自然体験の年間指導計画を作成し、活動内容や援助の工夫、改善を図る。

### Ⅳ 研究仮説

#### 1 基本仮説

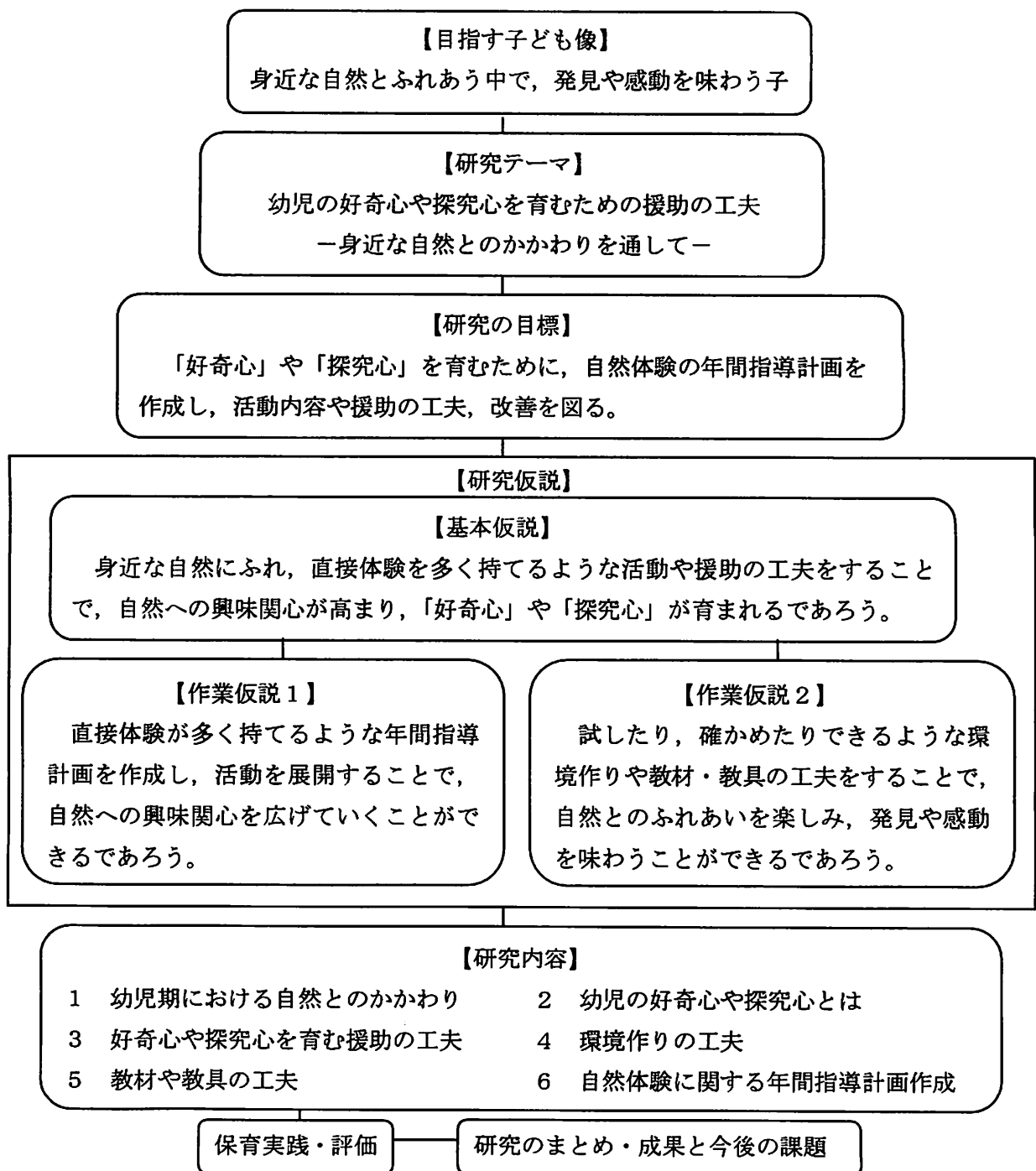
身近な自然にふれ、直接体験を多く持てるような活動や援助の工夫をすることで、自然への興味

関心が高まり、「好奇心」や「探究心」が育まれるであろう。

#### 2 作業仮説

- (1) 直接体験が多く持てるような年間指導計画を作成し、活動を展開することで、自然への興味関心を広げていくことができるであろう。
- (2) 試したり、確かめたりできるような環境作りや教材・教具の工夫をすることで、自然とのふれあいを楽しみ、発見や感動を味わうことができるであろう。

### Ⅴ 研究構想図



## VI 研究内容

### 1 幼児期における自然とのかかわり

自然環境と子どもの育ちについて『保育内容・環境』の中で次のように述べられている。

「人間形成の基礎を培う幼児期に、まわりの自然に目を向けさせ、自然に対する不思議さや人間にはどうすることもできない自然の偉大さ、生命の尊さ、そして、人間自身も自然の一部であることを感じとる芽を培っていくことは、たいへん重要なことである。(中略) 自然と出会ったとき、子どもは、「おや!」と立ち止まり、「おもしろいな」「きれいだな」と心を躍らせ、「何だろう?」と心をゆさぶり、心に感じる。この感じる力をはぐくんでいくことは、豊かな情操をはぐくみ探究心につながる道であり、さらに科学的な思考への基盤となっていく。」

直接的・具体的な体験を通して多くのことを学んでいく幼児期において、身近な自然にふれる体験をすることは、周りの環境に目を向け自分なりのかかわり方を身に付けていくとともに、もっと知りたい、なぜだろうと好奇心を抱いたり、探究していく心を培う上で大切だと考える。

### 2 幼児の好奇心や探究心とは

#### (1) 好奇心や探究心とは

子ども達は見たこともないものや魅力を感じたことに対して「これなあに?」と尋ねてきたり、「おもしろそう」「やってみたい」と興味を持ったり、関心を示す。

湯川秀樹氏(聖徳大学短期大学部助教授)は幼児の好奇心について「心理学や教育学等の辞書的な知見を借りれば、生まれながらにもっているものであり、目新しく珍しいもの、未知なるもの、複雑なものなどに興味や関心を示し、接近したり、探索したりすることに駆りたてる心の動きであるとされている。(中略) 見たがる、知りたがる、試したがる幼児の姿そのものであり、幼児の環境へかかわりたいという意欲の強さとしてもとらえることができる。」と述べてい

る。また、探究心は「興味や関心、好奇心を動力としてのものの本質に迫る力であり、それが幼児の知の広がりや深まりに繋がっていくのである。」と述べている。(図1)

このような幼児の好奇心や探究心を育むためには子ども達が直接ふれたり、感じたり、考えたりする等の豊かな体験ができるような教師のかかわりやはたらきかけが大切である。

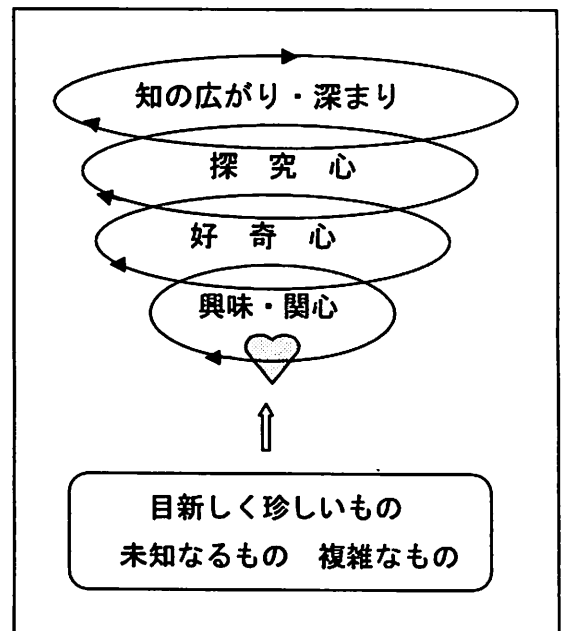


図1 幼児の好奇心から探究心への深まり

#### (2) 幼児の好奇心や探究心の捉え

これまでに見たり触れたりしたことのないものに対して目を止め、興味を持ってかかわる。好奇心を抱き五感を通してふれることで、発見や感動を味わう。そして、なぜだろう?と疑問を持ち、試したり確かめたりすることをくり返すことで新たな発見をし、納得する。さらに工夫したり、新たなものへと興味を持つ。

このような流れをくり返していくことで、好奇心が広がり探究心が深まっていくのではないかと考える。

また、次の表1のような言葉や行動が見られるとき、幼児の心が動き、好奇心や探究心が芽生えているのではないかと考える。

表1 幼児の心の動きを考える

	幼児の言葉や行動	心の動き
好奇心	<p>気づく・見つける・目に止まる</p> <p>↓</p> <p>これなあーに？ なんだろう おもしろそう</p> <p>《五感を通してふれてみる》</p> <p>触ってみる 手に取ってみる じっと見入る</p> <p>しゃがみ込む 耳を澄まして聴く 匂いを嗅ぐ</p>	<p>気づく</p> <p>興味を持つ</p> <p>心が動く</p>
	<p>わあ すごい きれい これ面白いね きもちわるい 甘いね</p> <p>不思議だな かわいいね 小さいね あったかい 何か聴こえる</p> <p>いい匂いがするね ざらざらしているね ○○みたいだね など</p>	<p>発見</p> <p>感動</p>
	<p>友だちや先生に伝える くり返し触ったり見たりする じっくりかかわる</p> <p>これ見て面白いよ いいもの見つけたよ 見せて見せて</p> <p>本当だ面白い 不思議だね どこで見つけたの？</p>	<p>共有・共感</p>
	<p>↓</p> <p>不思議だな なぜだろう？ どうしてかな？</p> <p>↓</p> <p>○○じゃない？ もしかしたら○○かな？ ○○だと思う</p>	<p>疑問</p>
探究心	<p>聞いてみよう（先生教えて ○○さん教えて）</p> <p>調べてみよう（図鑑に載っているかもしれないよ）</p> <p>試してみよう（○○してみたらどうかな）</p>	<p>調べてみたい</p> <p>試してみたい</p> <p>確かめてみたい</p>
	<p>くり返し確かめたり、図鑑で調べたり、尋ねてみる</p> <p>↓</p> <p>わかった○○なんだ 本当だ やっぱり○○だったんだね ○○って書いてあるよ</p> <p>⇒</p> <p>次はこうしてみよう こんな風になると面白いかもしれない</p>	<p>わかった</p> <p>（再発見）</p> <p>感動・納得</p>

3 好奇心や探究心を育む援助の工夫

自然とのかかわりを通して幼児の好奇心や探究心を育むためには次のような教師の援助が必要だと考える。

- (1) 幼児にとって魅力ある環境となるように、園庭や室内の環境作りをする。  
(直接体験が多く持てるような環境の工夫)
- (2) 自然との出会いを工夫する。
- (3) 幼児と一緒に自然とふれあいながら、幼児の気づきや発見を受け止め、共感する。また、幼

児の心を動かすような自然との出会いを見逃さないようにする。

- (4) 教師自身が心を動かし、自然とふれあうことを楽しむ。
- (5) 自然とじっくりかかわり、くり返し試したりできる時間や場の保証をする。
- (6) 子ども達の好奇心や探究心の芽生えを大切に、引き出すような言葉かけをする。教師自身が疑問や不思議さを感じ、探究しようとする気持ちを持つ。

#### 4 環境作りの工夫

幼児にとって魅力のある環境となるために、次のような工夫が必要ではないかと考える。

##### (1) 戸外

###### ① 昆虫とふれあう場

これまで、園庭に昆虫を呼び込むための工夫として季節に合わせた草花や野菜などを植えている。また、土山や少し湿った場所を作ること、ダンゴムシやカナブンの幼虫が生息できるようにしてきた。

子ども達が身近な自然へ興味を持ち、くり返しかかわる中で感動や発見、不思議だなと感じるかかわりができるためには、さらにどのような環境の工夫が必要かと考えた。

昆虫の中でもチョウ（成虫）は虫が苦手な子どもでもあまり抵抗を示すことが少ない。卵から幼虫、蛹そして成虫になる過程を見ることができ、子ども達が観察していく上で、「不思議だな」「なぜだろう」と疑問を感じたり、感動を味わうことができるとても魅力のある教材であると考えた。

そこで、園庭にチョウを呼び込むために、次の種類の食草を植える。

キンレンカ（モンシロチョウ）リュウキュウコスミレ、パンジー（ツマグロヒョウモン） ホウライカガミ（オオゴマダラ）ツルモウリンカ（リュウキュウアサヒマダラ）トウワタ（カバマダラ）インパチェンス（スズメガ）
--

###### ② 草花とふれあう場

季節を感じることができたり、遊びに使えるような草花や野草を植える。また、触れてみる、匂いを嗅いでみる、味わうなど五感を通して、様々な角度からくり返し草花とふれあう体験ができるようにする。その際、子ども達に興味を持たせたり、気づかせたり、遊びに沿うなど、子どもの動線や活動に合わせてプランターの配置を変えていく。

###### ③ 宮城の森の活用

隣接している小学校の宮城の森には、林、教材園、雑草園がある。そこにはバッタやコオロギ、トンボなどが生息し、園庭では見ら

れない木々があり、幼稚園では体験することのできない自然とのふれあいができると考える。

##### (2) 室内環境

###### コーナー作り

- ・ 疑問に感じたことや知りたいことがすぐに調べることができるように、図鑑や自然に関する絵本を用意する。その際、子ども達に興味を持たせたい（教師が意図する）内容の本を目に付く場所に置いたり、子ども達の発達段階や興味、季節に合わせて数を調整したり置き方を工夫する。
- ・ 子ども達がチョウの幼虫やバッタなどを間近で観察できるように飼育ケースを用意したり、食草を鉢ごと置く。
- ・ 遊びに利用したりできるように季節に合わせて自然物（貝殻、草花、木の実など）をかごに入れて飾ったり、草花や昆虫に関する写真等を掲示する。

#### 5 教材や教具の工夫

子ども達が教材とのかかわりを通して何を学ぶのかを踏まえ、幼児理解をし、活動を展開する中で教材・教具を選択していくことはとても大切なことである。

そこで本研究では、子ども達が身近な自然に興味関心を持つきっかけとなる教材として、自然クイズを作成する。そして自然とのふれあいを通して、様々な気づき、発見ができ、感動体験ができるために、試したり、確かめたりできるという視点から教材・教具の工夫を試みた。

#### 6 自然体験に関する年間指導計画

自然体験に関する年間指導計画を作成するにあたり、どのような直接体験ができるのか図鑑等を調べたり、実際に園内外の自然を散策した。

年間指導計画には、自然に関する各期のねらい、植物や小動物とのかかわり、活動、教材・教具、自然への興味関心を高め、好奇心や探究心を育むための援助の工夫を示した。



自然体験に関する年間指導計画 (5 歳児)

I 期 (4・5月)

発達過程	○ 新しい環境になれ、友達関係を広げて自分から遊ぶようになる。	ねらい	・ 小動物や草花とのかかわりを通して身近な自然への興味や関心を持つ。
植物とのかかわり	<p><b>草花にふれる</b></p> <p>遊びに取り入れたり、匂いを嗅いだり、触ってみたりする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 草ずもうをする (ムササビカハミ, 木ハコ)</li> <li>・ 花摘みをしたり、ままごとに使う (シロツメクサ, タネボ, アメリカナゲル)</li> <li>・ 綿毛を飛ばしたり、種をくっつける (タネボ, 好アラクセンダングサ)</li> <li>・ 触れてみる (オギギツ)</li> </ul>		<p><b>栽培活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アサガオの種を蒔く (一人一鉢)</li> <li>・ 花の苗を植える マツボタ, センチコウ, ホウセンカなど</li> <li>・ 野菜の苗を植える ゴーヤ, ピーマン, ナス, オクラなど</li> </ul>
小動物とのかかわり	<p><b>ダンゴムシを見つける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捕まえる</li> <li>・ 触ると丸くなる様子を見る</li> <li>・ どんなどころにいるか探す</li> <li>・ 絵本や図鑑で調べる</li> <li>・ ラジムシとの違いに気づく</li> <li>・ 育てている様子を見る</li> <li>・ 脱皮する様子を見る</li> </ul>		<p><b>テントウムシやチョウを見つける, 幼虫を育てる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追いかけたり, 捕まえたりする</li> <li>・ 触ってみる</li> <li>・ 虫の特徴に気づく (テントウムシが先端にくると飛ぶなど)</li> <li>・ 幼虫を観察する中で変化に気づく (モンシロチョウ, ツマグロヒョウモン)</li> <li>・ 蛹の変化に不思議感をもつ</li> <li>・ 成虫になったことを喜ぶ</li> </ul>
活動	<p><b>的当てゲーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 好アラクセンダングサを集める</li> <li>・ 的当てゲームを楽しむ</li> <li>・ くつつく植物を探してみよう</li> </ul> <p><b>木の葉のカルタとり (ネチャゲーム)</b></p>		<p><b>自然クイズ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダンゴムシやテントウムシに関するクイズ</li> <li>・ オギギツに関するクイズ</li> <li>・ 面白い, 不思議だなと感じる</li> </ul> <p>・ 色々な種類の葉を集める 集めてきた葉の中から特徴があつて見わけやすい葉をカルタにする ・ 同じ形の葉をとる</p>
教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 的当て</li> <li>・ 自然クイズ (カード)</li> <li>・ 自然物 (カルタとりに使う葉っぱ, 好アラクセンダングサ)</li> <li>・ 飼育ケース</li> </ul>	<p>絵本・紙芝居</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然月間絵本</li> <li>・ はらぺこあおむし</li> <li>・ だんごむし</li> <li>・ もんしろちょう</li> <li>・ *やっとなつめた</li> </ul>	<p>うた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちゅうりっぷ</li> <li>・ だんごむし体操</li> <li>・ さんぽ</li> <li>・ ことりのうた</li> </ul>
環境構成	<p>◇ テントウムシやチョウの幼虫が見つかりそうな場所を調べておき, 子どもと一緒にを見つけるなど身近な自然に触れる機会を多くもつように工夫する。</p> <p>◇ 「どうしてだろう?」「なぜだろう?」など, 子ども達から出た疑問にしていねいに向き合い, 即答するのではなく, 一緒に調べて楽しむことを積み重ねていく。また, 教師自身も疑問に感じることを言葉にし, 子ども達に投げかけていく。</p> <p>◇ 虫の好きな子どもの捕まえた虫を見せてもらったり, 教師が捕まえてケースに入れたりして虫に苦手意識を持った子どもも安心してかかわれる機会をつくっていく。</p> <p>○ 草花や虫などに興味や関心が持てるよう, 図鑑や絵本, 虫カゴや飼育ケースなどを用意しておく。</p> <p>◇ 教師がチョウの幼虫やオタマジャクシを育てることで, 子ども達が興味を持ち成虫になる様子を観察できるようにする。</p> <p>○ オタマジャクシやザリガニなどは近くでよく見えるように透明な容器や小さいタライに移す。</p> <p>○ 野草とふれあえる空間 (雑草園) を確保する。</p> <p>◇ アレルギーの子どもがいるかを把握しておき, 対応の仕方を職員間で共通にしておく。</p>		



Ⅱ期（6・7月）			
発達過程	○ いろいろな遊びを経験しながら、友達とのかかわりを広げていく。	ねらい	・ 身近な自然現象にふれ、生命の不思議さや面白さを感じる。
植物とのかかわり	<b>草花の生長の変化に気づく</b> ・ 芽が出る喜びを味わう ・ アサガオの蔓が伸びていく ・ ヒマワリの背比べ	<b>草花にふれる</b> ・ 色水遊びをする（アサガオ・オトシコ・マツバボタンなど） ・ 色が変化していく様子を不思議に感じる。どんな色になるか試してみる（他の花、水の量、花の数など）	<b>夏野菜の収穫</b> ・ 野菜の生長を観察する ・ 匂いを嗅いだり、触って感触を確かめたりする ・ 収穫を喜び、味わう
小動物とのかかわり	<b>カタツムリを見つける</b> ・ 動きを観察する ・ 捕まえてみる ・ 虫の特徴に気づく（形、大きさ、動きなど）	<b>オタマジャクシやカエルを見つける</b> ・ オタマジャクシを捕まえる ・ 育ててみる ・ 成長を観察する中で、変化や特徴に気づく ・ 図鑑や本でエサなどを調べる	<b>セミを見つける</b> ・ 抜け殻を見つける ・ セミの鳴き声を聞く。鳴き声の違いに気づく ・ 捕まえたり、飛ばしてみる ・ オスとメスの違いに気づく ・ 生態がわかり逃がそうとする
活動	<b>雨の日の散歩（散策）</b> ・ 雨の日に出会える生き物を探してみよう ・ しずくを見たり水たまりやぬかるみの感触を味わう ・ 雨の嫌いな虫はどうしているかな？	<b>アサガオのたたき染め</b> ・ 和紙に染まっていく様子を楽しむ ・ 色々な種類の紙で試してみる	<b>自然クイズ</b> ・ 野菜に関するクイズ ・ 野菜を当ててみよう（匂い、触感） ・ 野菜の花当て
教材・教具	・ 虫捕り網 ・ 虫かご（手作り） ・ 飼育ケース ・ セミの鳴き声（CD） ・ なぞなぞボックス ・ 色水あそびの道具	絵本・紙芝居 ・ 自然月間絵本 ・ あめふり ・ おたまじゃくし ・ おきんわのしぜんとこども ・ ゴーヤー	うた ・ かたつむり ・ あめふりくまのこ ・ セミ
教師の援助	◇ 雨の降るようすや音、雲の動きや虹に驚きや発見をしたり、水たまりやぬかるみの感触を楽しむなど、自然とふれあう機会を大切にする。 ◇ オタマジャクシの変化やカタツムリの動きなど、気づいたり、不思議に思ったりしたことを図鑑と見比べたり調べたりする姿に共感する。 ◇ 子どもが発見したものの名前や種類、疑問の答えなど子どもと一緒に考えたり、図鑑で調べたりして「わかった」「うれしい」という気持ちに共感していく。 ○ 育てている夏野菜について興味や関心が深まるように、保育室に提示するものを工夫する。（詳しく書かれている科学絵本など）		
環境構成	◇ 色水遊びを通して色が変化していく様子を楽しめるようにする。また、水や（萎れた）花びらの量や種類によって色が違うことに気づき、試したりできるようにする。 ◇ 子ども達がセミや虫を観察して発見したときは、鳴き声や形や色などにも気づかせ、一緒に図鑑で調べたりする。 ◇ 昆虫に触れたり、世話をしたりする中で短い一生の命の尊さを知らせていく。		

Ⅲ期 (9・10月)

発達過程	○ 友達とかかわりながら、自分の考えを伝え合って生活する楽しさを味わうようになる。	ねらい	・ 季節の変化に気づき、興味や関心を持ってかわる。
植物とのかかわり	<p><b>種取りをする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサギオ, ヒマリ, センチコウ</li> <li>・ウツ</li> <li>・種の大きさや形を比べる</li> <li>・数をかぞえる</li> <li>・種を使って遊ぶ</li> </ul>	<p><b>匂いを嗅いでみよう・味わってみよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・匂いのある植物や食べられる植物があることがわかる</li> <li>・ミント, パジル, ヨモギ, ショウブなど</li> </ul>	<p><b>草花や木々にふれる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガジュマルの木登り</li> <li>・草笛</li> <li>・触ってみよう</li> <li>・ソテツ, エノコグサ</li> <li>・遊びに取り入れる</li> </ul>
小動物とのかかわり	<p><b>トンボ・バッタ・ヨモギを見つける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追いかけたり, 捕まえたりする</li> <li>・見たり, 触ったり, 遊んだりする</li> <li>・図鑑や本で種類や名前を調べる</li> <li>・図鑑で育て方を調べる</li> <li>・育ててみる (バッタ・ヨモギ)</li> </ul>	<p><b>カブソンの幼虫探し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土を掘って幼虫を探す</li> <li>・触ってみる</li> <li>・大きさを比べる</li> <li>・何の幼虫か図鑑や絵本で調べる</li> <li>・育て方を調べて, 育ててみる</li> <li>・成虫になったことを喜ぶ</li> </ul>	
活動	<p><b>おにわのビンゴ (ネイチャーゲーム)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五感を通して自然にふれる</li> <li>・宝物を発見することを楽しむ</li> </ul> <p><b>自然クイズ</b> ・誰だかわかるかな? ・虫の顔 ・虫の声</p>	<p><b>葉や木肌のこすりだし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こすりだししてみたい葉っぱを集める</li> <li>・どんな模様がでるか試してみる</li> <li>・でてくる模様を見て楽しむ</li> <li>・いろいろな道具を使ってみる (鉛筆, 色鉛筆, クレヨン, ローラー)</li> </ul>	
教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビンゴカード</li> <li>・自然クイズ (カード, CD)</li> <li>・葉っぱ</li> <li>・鉛筆</li> <li>・色鉛筆, クレヨン</li> <li>・ローラー</li> </ul>	<p>絵本・紙芝居</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然月間絵本</li> <li>・図鑑</li> <li>・かまきりによつき</li> <li>・とべバッタ</li> <li>・*とんぼのトンちゃんかくれんぼ</li> <li>・*おおきな木がほしい</li> </ul>	<p>うた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とんぼのめがね</li> <li>・こおろぎ</li> <li>・虫の声</li> <li>・どんぐりころころ</li> </ul>
教師の援助環境構成	<p>◇ ○ 草花の変化に気づくように, 種のできているプランターを目につきやすい場所に移動しておく。</p> <p>◇ ○ 虫の声や草花のようす, 種とりをしながら色や形の違いや数など, それぞれが気づいたり不思議に思ったことを受け止め, 身近な自然へより関心が深まるように言葉かけをしていく。</p> <p>◇ ○ 初秋の空の美しさ, 雲の動き, 風のさわやかさなどに気づくよう, 戸外に出る機会を多く持ち, 自然の中で遊ぶ楽しさを味わえるようにする。</p> <p>◇ ○ 集めた葉を使ってこすりだしやローラー版画をする中で, 思いもよらないできあがりの面白さや, 葉脈の美しさを味わい, 互いに感じたことを伝え合ったりできるようにする。</p> <p>◇ ○ 捕まえた虫に興味を持ち, 飼育しようとする姿も見られるようになるので, 気になることや知りたいことを調べるコーナーを設定し, わかりやすい図鑑や絵本を用意する。</p> <p>◇ ○ 虫の世話を共にしながら, 虫の特徴を見つけたり, 世話の仕方に気づくようにする。</p> <p>◇ ○ フィールドビンゴの問題を子ども達の身近な宝物 (自然物) にする。また, 五感を使って探すことができるように, 内容を工夫する。(視覚〈形, 色, 大きさ〉嗅覚, 味覚, 聴覚, 触覚)</p>		

IV期 (11・12月)			
発達過程	○ 自分たちの目的をもち、その実現に向けて意欲的に遊びを作ったり、生活を進めていくようになる。	ねらい ・ 自然の移り変わりの美しさや不思議に関心を持ってかかわり、感動したり遊びに取り入れる。	
植物とのかかわり	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">草花や木々にふれる</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木の葉や木の実を集める</li> <li>・ 色や形、大きさの違いに気づく</li> <li>・ 遊びに取り入れる (松葉のすもう)</li> <li>・ 見たり触ったりして木々の変化や落ち葉の美しさに気づく</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">芋ほりをする (遠足)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芋の大きさを比べる</li> <li>・ 味わう (焼き芋, てんぷら)</li> <li>・ 水栽培</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">栽培活動</div> <p>インパチェンス, ベゴニア ジャガイロ, タネ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世話をする中で、生長を楽しむ</li> <li>・ 根野菜がわかる</li> </ul>
小動物とのかかわり	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">バッタやコオロギを見つける</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追いかけたり、捕まえたりする</li> <li>・ じっと観察する、触ってみる</li> <li>・ 育ててみる 育て方を調べる</li> <li>・ 図鑑や本でバッタの種類や、エサなどを調べる</li> <li>・ バッタが脱皮する様子を見る</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">かまぐららの幼虫を見つける</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トリツタに幼虫がいるのに気づく</li> <li>・ 幼虫を観察する</li> <li>・ 育ててみる</li> <li>・ えさをあたえる (食草がわかる)</li> <li>・ 蛹に変化していく様子に不思議感をもつ</li> <li>・ チョリになったことを喜ぶ 自然にかえす</li> </ul>	
活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">みやぎの森へ探検に行こう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城の森の散策を楽しむ</li> <li>・ 落ち葉や木の実を集める</li> <li>・ 発見した宝物を発見マップに書き入れていく</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">みやぎの森のビンゴ (ネチャーゲーム)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城の森を散策し問題を考える</li> <li>・ 宝物を発見することを楽しむ</li> <li>・ 五感を通して自然にふれる</li> </ul>	
教材・教具	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自然クイズ</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビンゴカード</li> <li>・ 発見マップ</li> <li>・ 自然クイズ (カード)</li> <li>・ 探検バック</li> <li>・ 飼育ケース</li> <li>・ 自然物</li> </ul>	絵本・紙芝居 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然月間絵本</li> <li>・ コスモスさいた</li> <li>・ カバマダラ</li> <li>・ あきのえんそくはたからさがし</li> <li>・ *りすさんのどんぐりさがし</li> </ul>	うた <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まつぼっくり</li> <li>・ 手のひらを太陽に</li> <li>・ やきいもグーチーパー</li> <li>・ 大きくなり木の木の下で</li> </ul>
◇ 教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 園庭や小学校の校庭を探索したり、園外の散歩に出かけたりして昆虫や草花にかかわって遊べるような機会を持つ。</li> <li>◇ 落ち葉の色の美しさ、形の違い、葉っぱを踏んだ時の音など子ども達が五感を通してかかわれるようにする。</li> <li>◇ 少しずつ変化していく自然の様子に目が向けられるよう気づいたことを話し合う時間をもつ。</li> <li>◇ 子ども達のさまざまな発見や驚きに教師も共感し、子どもが自然の中で感じ取った喜びを大切に受け止める。また、クラス全体にも関心が広まるようにする。</li> </ul>		
○ 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども達が拾ってきた落ち葉や木の実などを空き箱に集めたり、分類したりできるようにしておく。また、図鑑や絵本も置き、興味を持ったことが自分で調べられるようにする。</li> <li>◇ 飼育することを通して虫を自然に戻すことや命についても考えるきっかけをつくる。</li> <li>◇ 苗を大事に扱い、土に触れながら自ら植えることにより、植物や野菜に興味や関心をもって育てるように言葉かけをしていく。</li> <li>○ 探索に行く場所を下見し、どのような体験ができるか、危険な場所がないかなど検討しておく。</li> </ul>		

V期（1・2・3月）			
発達過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの目的をもち、その実現に向けて意欲的に遊びを作ったり、生活を進めていくようになる。</li> <li>○ 入学への喜びや期待をもち、自分から進んで何でもしようとする。</li> </ul>	ねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然事象への興味や関心を深め、美しさや不思議さに対する感性を豊かにする。</li> </ul>	
植物とのかかわり	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <b>草花や木々にふれる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サクラやヤマブキの花が咲き出す</li> <li>・ タンポポ、キンカ、パンジーが咲き始める</li> <li>・ 春の訪れを感じる</li> <li>・ インパチェンスの種を集める（種が弾けるよゆうを楽しむ）</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <b>野菜を収穫する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コシジロ、ジャガイモを収穫する</li> <li>・ カレー作りをして味わう</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <b>栽培活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チューリップの球根を植える</li> <li>・ チューリップの生長の変化を楽しむ</li> </ul> </div> </div>		
小動物とのかかわり	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>キョウチクトウスガの幼虫を見つける</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インパチェンスに幼虫がいるのに気づく</li> <li>・ 幼虫を観察する</li> <li>・ 育ててみる</li> <li>・ えさをあたえる（食草がわかる）</li> <li>・ チョウとガの違いに気づく（蛹の作り方など）</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>テントウムシの幼虫やチョウの卵を見つける</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春の訪れを感じる</li> <li>・ 捕まえたりする</li> <li>・ 幼虫を育ててみる</li> <li>・ 観察する中で変化に気づく</li> <li>・ 成虫になったことを喜ぶ</li> <li>・ 自然にかえす</li> </ul> </div> </div>		
活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>カモフラージュ（ネイチャーゲーム）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 林の中に隠された人工物を探す</li> <li>・ いくつあったか確かめる</li> <li>・ 虫たちはなぜカモフラージュをするのか考えてみる</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>自然クイズ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どこに隠れているでしょう</li> <li>・ 何の虫が隠れているでしょう</li> <li>・ どうして隠れるのかな</li> </ul> </div> </div>		
教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然クイズ（カード、写真）</li> <li>・ カモフラージュに使用する人工物</li> <li>・ 飼育ケース</li> </ul>	絵本・紙芝居 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然月間絵本</li> <li>・ はなをくくん</li> <li>・ 自然のかくし絵</li> </ul>	うた <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カレーライスのうた</li> <li>・ はたけのボルカ</li> <li>・ ちいさな畑</li> <li>・ ちゅうりっぷ</li> </ul>
教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 小動物が冬の間どのように過ごしているか等に疑問を持ち、一緒に観察したり調べたりする。</li> <li>○ 子ども達の手の届く場所に冬の自然に関する絵本や図鑑などを用意しておき、自分たちでも調べたりできるようにしておく。</li> <li>◇ 自然クイズやカモフラージュをする中で、小動物はどうして隠れるのだろうかという疑問を感じたりするような投げかけをし、一緒に考えたり調べたりする。</li> <li>◇ 風の冷たさや日だまりの暖かさなど、子ども達の気づきや発想を受け止め、自然事象への関心を高めていく。</li> </ul>		
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園庭の木々の芽が少しずつ膨らんできている様子に気づかせ、春が訪れていることを感じられるようにする。（カビダケ）また、日差しの暖かさ、木々の芽吹きや草花の生長など、自然の変化に興味や関心が持てるよう、戸外に出かける機会を持つ。</li> <li>◇ テントウムシやチョウの卵などを見つけるなど身近で春探しをする中で、子どもが気づいたことを伝え合えるようにし、自然の美しさや不思議さを実感させる。</li> </ul>		



## Ⅶ 保育実践

### 検証保育 実践事例 1

#### 1 主題名 『みやぎの森へ探検に行こう』

#### 2 題材として取り上げた理由

子ども達は散歩や園外保育が大好きである。小学校の宮城の森や教材園には園庭では見られない木々が多くあり、草原にはバッタやコオロギ、トンボなどが生息している。そこで、身近な自然である宮城の森に探検に行くことで、園庭では経

験できない自然とのふれあいを楽しむことができるのではないかと考え、題材として取り上げた。保育活動を展開する中で身近な自然に興味を持ち、くり返しかわることができるように、宮城の森で見つけた自然物を題材にしたクイズを作成し出題する。また、探検する中で見つけた宝物（自然物）や直接体験したことなどをマップに表現し振り返ることにした。

#### 3 活動の展開

ねらい：身近な自然に興味や関心を持ち、ふれあいを楽しむ。

##### 活動の流れ

##### 子どもの姿

##### 教師の援助・手だて

11/9 (木)

#### 【みやぎの森へ探検に行こう】

「これから散歩に行くんだよね」と期待をもって話を聞いている。「これ面白い葉っぱだよ。」「本当だクルクルしている。面白ね。」「あつくモの巣だ。」と色々見つけて喜んでいる。夢中になって昆虫を追いかけたり、花摘みをしている子もいるが、途中で飽きてしまう子も見られる。中には「先生ここ何か少し怖い」と不安に感じてる子もいた。

☆ じっくりかかわることができるためには、子ども達が安心して自然にふれることができるような援助が必要である。不安に感じている子への手だてとして、手をつないで一緒にかかわるようにする。また、友達や教師が散策する中で見つけたものを伝えて安心感がもてるようにする。

☆ 子ども達が見つけた『いいもの』や「面白いな」「不思議だな」と感じられるようなものを写真に撮り、クイズにして紹介することで、身近な自然に興味をもつきっかけとなるようする。

11/10 (金)

#### 【いいものみつけた】

宮城の森で見つけた自然物のクイズを楽しむ



図2  
自然クイズ



面白い形をした木の幹や枯葉、木の実、子ども達がよく目にする草花など色々な種類の植物の写真を中心にクイズを出す。(図2)

「何に見えるかな?」「どうして穴が開いているのかな?」などと問いかけると、子ども達は

「虫が食べたのかな?」「誰かが穴を開けたんだよ。」「葉っぱが腐れてこんな風になったんじゃない?」不思議だね、面白いと興味をもってクイズに答えていた。

「先生、また宮城の森に行きたくなった。」という声もあがる。

11/14 (火)

【みやぎの森に探検に行こう2】

- ・クイズで紹介した木や葉っぱなどの自然物がどこにあるのか探したり、触れたりしてみんなで確かめる。
- ・新たな発見を楽しむ



図3 触って確かめている



図4 松葉のすもう

- ☆ 一人一人の実態を把握しどのような援助が必要なのか、個に応じた援助を行う。
- ☆ みやぎの森の探検（直接体験）を通して発見したこと、不思議だなと感じたことを発見マップという形で表現することで、振り返り、さらに興味をもてるようにする。

「先生つつつした木あったよ。触ってみて。」「穴が開いているところあった。」と確かめたり、(図3)「この木はざらざらしているよ。」違う木を触って違いを見つけている子もいる。また、木を揺らして葉っぱを落とし、「葉っぱの雪だ。」「秋の葉っぱだね。」と楽しむ姿も見られた。

〈N子へのかかわりからみんなを試してみよう〉

子ども達がそれぞれにふれあいを楽しんでいる中、飽きてしまった様子でN子が座り込んでしまう。一緒に遊ぼうと声をかけ、松の木の下に誘いこれで遊べるんだよと引っ張りすもうをやってみせる。

すると、「先生面白い。もう一回やろう。」と何度も繰り返す。まわりで遊んでいた子ども達も「先生やりたい。」「一緒に勝負しよう。」と集まってくる。(図4)

「また負けちゃった。どうしてすぐに切れちゃうのかな?」と意図的に話したことで、「わかった。ゆっくり引っ張ると切れないよ。」「しっかりくっついているものが勝つよ。」とどうしたら葉っぱが切れぬか試したり、工夫する姿が見られた。

11/20 (月)

【たからもの—いいものみつけた—】

- ・手作りの発見マップを紹介する
- ・自然クイズ (シルエットクイズ)



図5 発見マップの紹介

「先生ね宮城の森に行って発見したことが嬉しくて、こんなもの作って見たよ。」と手作りの発見マップを見せる。(図5) 子ども達は表紙を見て、「たからものって書いてある。」「葉っぱがはってる。」と興味を示している。

「ここではねこんな物を見つけたよ。」「どうして葉っぱが落ちたのかな。」等と発見したことや、どう感じたのかを書き入れて紹介する。

すると、「先生、また宮城の森に行きたい。」「〇〇もこれ作りたい。」「先生みたいに大きいのを作りたいな。」「ちっちゃいのがいい。」「2つ作ってもいいの?」という声があがった。

- ☆ 子ども達が好きな大きさを選ぶように画用紙を用意する。
- ☆ 子ども達が小学校の宮城の森や教材園で発見したものをいくつか写真に撮り、掲示しておく。
- ☆ 文字が書けない子は、一緒に書いたり聞き取りをして書いてあげる。  
(失敗してもいいように、別の紙に書いて、台紙に貼るという方法をとる。)
- ☆ 何度も繰り返し活動を楽しめるようにする。

11/24 (金) ~

【発見マップを作ろう】



図6 発見マップを作ろう

自分はどの場所で「いいもの」を見つけたかな、とそれぞれ思い出しながら、宮城の森の写真を選び、「バッタをみつけたんだよ。」「〇〇は赤と緑が混ざった葉っぱを見つけたんだよ。」等と、会話も楽しみながら絵や文章を書いている。(図6) また、自分たちが見つけたものを入れたかごの中から、葉っぱを取ってきて、画用紙に貼り付けたり、(図7)「〇〇が見つけたのはなんでしょう?」とクイズにして書いたり工夫している子もいた。

【考察】

○ 始めは「先生ここに入るの少し怖い。」「大丈夫?」と恐る恐る入る子や、立っている子もいたが、教師や興味を持った友達が「この葉っぱ面白いよ。見て。」「大きな木だね。」「すごいね。」と触れていく様子を見て、「本当だ。」「超大きい木だね。」「あっ小さい木もあるよ。」と少しずつ興味を示していた。

また、子ども達が探検した森の自然物を題材にしたクイズを作成し、出題したことで「また、宮城の森に行きたくなった。」という声も上がる。二回目の探検ではクイズの題材になった葉っぱや木を探して見つけると、「あったー。」「本当につるつるしている。」「変な形していたのここだよ。」「面白いね。アリの巣かな?」とじっと観察する姿も見られた。

教材を工夫したことで、身近な自然に目を向け、直接体験をくり返すことで興味や関心を広げることができたと考える。

○ この時期に、どのような体験ができるか教師自身が森を散策し、指導計画を立てたことで、少しずつ色づいた木々の変化に気づくような言葉かけをしたり、自然に対して興味の薄い子ども達への遊びの投げかけをすることができたと考える。

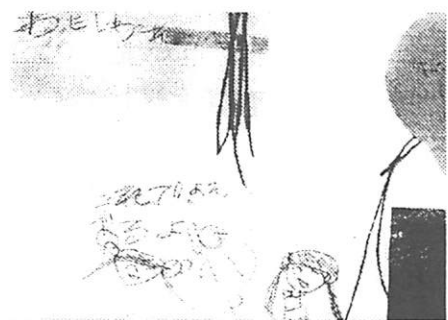


図7 N子が松葉で遊べることを書いている発見マップ

○ 自然クイズの中で問題を提示する際に「どうしてかな?」「不思議だね。」という言葉を用意して投げかけることで、子ども達が「なぜだろう。」「もしかしたらこうかもしれない。」という思いを持つことができたと考えられる。

1 主題名 『みやぎの森のビンゴ』

2 取り上げる題材

『ネイチャーゲーム フィールドビンゴ』

3 主題設定の理由

【5歳児の発達の特性】

5歳児になると好奇心や探究心が高まり、より細かい部分に目を向けるようになり、変化に気づいたり、興味をもって持続的に観察したりするようになるといわれている。また、そのかわりは同じことをくり返すなど、大人からみると一見たわいもない動きをすることもあるが、幼児は試したり確かめたりして、それがどのようなものであるかを探り当てていくといわれている。

以上のことから、5歳児にとって直接的で具体的な自然とふれあう経験が、感じる力を育み、豊かな情操や思考力の基礎を培う上で大切であろうと考える。

【幼児の姿】

5月に本園の子ども達を対象に行った自然体験に関するアンケートの結果、自然体験が不足していることを感じた。

クラスの子どもの姿を見ると、昆虫を捕まえたり土を掘って幼虫を探したりと、興味を持って自然とのかかわりを楽しんでいる子もいるが、室内活動を好む子、草原へ行っても飽きてしまうといった行動も見られる。

これまでの保育の中で、身近な自然にふれる体験を多くもてるようにしてきた。活動を展開する中で、宮城の森に散策に行くことを楽しんだり、室内で育てているチョウの幼虫やバッタなどに興味を持っている子もいる。また、11月27日（月）に園庭で『おにわのビンゴ』ゲームでは宝物を発見することを楽しんだり、1つの宝物をじっくり探したりと多くの子が自然とふれあう姿が見られた。

【題材として取り上げた理由】

見たり、触れたり、聴いたり、匂いを嗅いだりと様々な感覚を使って自然とふれあうことで、より発見を楽しみ感動を味わうのではないかと考える。そこで、五感を通して直接体験ができるネイチャーゲームを取り上げた。

ネイチャーゲームとは米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏によって1979年に発表された活動で、その活動は自然を様々な感覚を使って直接体験して、自然への共感をはぐぐむことができるといわれている。

数あるゲームの中から今回はフィールドビンゴを取り上げ、ゲームの内容を子ども達の身近である園庭の宝物を見つけてみよう『おにわのビンゴ』ゲームを実践する。さらに活動を展開し、子ども達自身がゲームの宝物を考え問題を一緒に作っていくことでくり返し自然とかわり、より興味をもって活動に取り組むのではないかと考える。

そこで、本時では隣接している小学校の宮城の森や教材園で、友だちや先生が考えたゲームを体験することで、より発見や感動を味わうことができるのではないかと考え、題材を取り上げた。

4 本時のねらい

- (1) 友だちと一緒にビンゴゲームを楽しむことで、身近な自然に興味や関心を持つ。
- (2) さまざまな感覚を通して、宝物を発見することを楽しむ。

5 授業仮説

- (1) 五感を通して自然にふれる活動を設定することでじっくりと自然にかかわり、発見や感動を味わうであろう。
- (2) 自分たちでビンゴの宝物を考えることで、より興味を持って活動に取り組むであろう。



6 本時までの取り組み（保育の展開）

活動の流れ	子どもの姿	教師の援助
<p>11月27日（月）</p> <p>○『おにわのビンゴ』フィールドビンゴをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビンゴってなに？」「わかるやったことある。」「なんか違う。」「ちくちくするものって書いてある。」と興味津々である。</li> <li>・「ここにピンク色の花あった。」「鳥のチュンチュンって声が聞こえたよ。」などとゲームを楽しんでいた。また、中にはじっくり幼虫を探している子もいる。</li> <li>・初めての活動なので、最初はどのように探しているのかわからず立っていたり、歩き回っている子もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*初めて行う活動なので、ゲームのルールをカードを用いて分りやすくゆっくり説明する。</li> <li>*問題を子ども達の身近である園庭の宝物（自然物）にする。また、五感を使って探すことができるように、内容を工夫する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>視覚（形、色、大きさ）嗅覚 味覚、聴覚、触覚</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>*どの宝物（自然物）から探してみようかと声をかけ、ヒントを出しながら一緒に探す。</li> </ul>
<p>11月29日（水）</p> <p>○話し合い</p> <p>○グループを決める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみたい。」「面白そう。」「いいね。」という声があがった。</li> <li>・グループを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「月曜日ビンゴゲーム楽しかった？みんな沢山宝物を見つけていたよね。今度はみんながゲームの宝物を考えてみる？」と投げかけてみる。</li> <li>*グループ同士で問題を出し合うことを説明し、ゲームの内容を考えるグループを決める。</li> </ul>
<p>12月1日（金）</p> <p>12月4日（月）</p> <p>12月5日（火）</p> <p>○『みやぎの森のビンゴ』ゲームの宝物（問題）をグループごとに考える</p> <p>○シールを貼る係を決める（各グループ）</p> <p>○探検バック作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何がいいかな？」「これはどう？」相談したり、殆どのグループが実際にみやぎの森へ行って宝物を見つけて問題にしている。問題になる宝物を探す中で、「この葉っぱ面白い。」「この花いい匂い。石けんの匂いがある。」等と発見を楽しんでいる。</li> <li>・「Tはこんなバックにしたよ。タコの足がついている。」「Rはふたがあるものがいい。」と工夫して探検バックを作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*どこを使って探すか考えることができるように、問題を書く紙の上に目、耳、口、手、鼻の絵のマークを書く。</li> <li>*ふわふわするもの、模様のある葉っぱ等と子ども達が具体的な言葉で表現できるためには実際に見たり、触れたりすることが必要だと考え、宮城の森へ行ってみたい？と投げかける。</li> <li>*なかなか興味を示さない子や活動に参加できない子に対して「一緒に考えてみよう。この葉っぱ面白い形しているね。」と言葉かけをし、興味を持てるように援助する。</li> </ul>

7 検証保育指導案

日時	平成18年 12月6日(水) 9:00~10:20		
対象	そら組(5歳児) 男児13名 女児13名 計26名	主題	・みやぎの森のビンゴ
ねらい	○友だちと一緒にビンゴゲームを楽しむことで、身近な自然に興味や関心を持つ。 ○さまざまな感覚を通して、宝物を発見することを楽しむ。		
授業仮説	○五感を通して自然にふれる活動を設定することでじっくりと自然にかかわり、発見や感動を味わうであろう。 ○自分たちでビンゴの宝物を考えることで、より興味を持って活動に取り組むであろう。		
前日までの子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内で育てている幼虫の変化に気づき、「どうして色が変わったのかな?」「これは何の幼虫だろう。」と調べたり、図鑑と見比べている子もいる。</li> <li>・意思の疎通がうまくいかずトラブルになることもあるが、少しずつ友だちの話を聞いたり解決できるようになっている。</li> <li>・今度は自分たちでビンゴの問題となる宝物を考えてみよう、殆んどグループが実際に宮城の森に行き、「何がいいかな?」「これはどう?」と相談している。</li> <li>・探検バックを作ろうと、空き箱を使い工夫している子もいる。</li> <li>・全体の活動に参加できない子が数名いる。</li> </ul>		
時間	活動の流れ	*教師の援助 ☆環境構成	評価の視点
9:00	<p>○集まる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに座る</li> <li>・歌を歌う</li> <li>・話を聞く</li> </ul>	<p>☆安心して、安全に活動に取り組めるように事前に下調べを行う。(前日・朝)</p> <p>*ビンゴゲームに期待が持てるように、今日まで子ども達が取り組んできたことを話す。</p> <p>*今日の活動の手順や約束事を確認する。</p> <p>《手順》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①宮城の森でビンゴゲームをする。</li> <li>②グループ全員で発見したらシールを貼る。</li> <li>③縦, 横, 斜めのうち一列そろったら「ビンゴ」と声をあげる。</li> <li>④ゲームが終わったら発見した宝物を紹介する。</li> </ol> <p>*ゲームのルールを再度確認する。</p> <p>《約束》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①グループの友だちと一緒にゲームを楽しむ。</li> <li>②教師の姿が見える範囲で活動する。(森の奥のほうには行かない)</li> <li>③競争するゲームではないので、ゆっくり探す。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビンゴゲームに期待を持ち、話を聞いているか。</li> </ul>

9 : 20	<p>○宮城の森へ行く前に、水分補給や排泄をすませる</p> <p>○宮城の森へ行く</p>	<p>*全員そろったことを確認して移動する。</p>	
9 : 25	<p>○『みやぎの森のビンゴ』ビンゴゲームをする (友だちが作ったビンゴカードを用い、宝物を見つける)</p> <p>○カードに書いてある宝物を探す</p> <div data-bbox="315 723 616 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《教材》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビンゴカード</li> <li>・シール</li> <li>・探検バック</li> </ul> </div> <div data-bbox="315 954 625 1211" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく見てみよう</li> <li>・匂いを嗅いでみよう</li> <li>・触ってみよう</li> <li>・音を聴いてみよう</li> </ul> </div> <p>○宝物を見つけたらシールをはる</p> <p>○縦、横、斜めのうち一列そろったら「ビンゴ」と言う</p> <p>○教師にカードと宝物を見せる</p> <p>○他のグループが終わるまで待つ</p>	<p>*ビンゴカードを配り内容をグループごとに確認する。</p> <p>*探す範囲と集まる方法を伝え、ゲームを開始する。(☆ポールを立てておく)</p> <p>*一人ひとりの感覚を大切にして、グループ全員が納得したらシールを貼るよう言葉かけをする。</p> <p>*勝負にこだわらず、宝物を見つけることを楽しめるようにする。</p> <p>*「ざらざらってどんな感じだろう？」等とわからない表現があったり、なかなか見つけられない宝物があったら、一緒に探したりヒントを出す。</p> <p>*五感を使って発見を楽しめるように、「匂いを嗅いでみよう。」「これはくるくるしている葉っぱかな。」等と、教師も意図的に言葉にし、子ども達の感覚を大切に受け止める。</p>	<p>・匂いを嗅いだり、触ってみたりと五感を使って自然にふれ、宝物を探しているか。</p> <p>・グループで相談しながらゲームを楽しんでいるか。</p>
10 : 00	<p>○集まる</p> <p>○グループで発見した宝物を紹介する</p>	<p>*子ども達が「あった」「見つけた」等と発見したことを一緒に喜ぶ。</p> <p>*発見した宝物や、見つけた場所を一緒に確かめたりする。</p> <p>*ビンゴゲームが終わったグループは座って待つように声をかける。</p> <p>*全グループがビンゴになったことを確認して集まるように声をかける。 (十分活動できたかどうか様子を見て時間配分する)</p>	<p>・宝物を発見することを楽しんでいるか。</p>
10 : 15	<p>○他のグループの友だちが見つけた宝物や発見した場所を見ながら幼稚園に戻る</p>	<p>*どのグループも宝物を紹介できるように配慮し、今日の活動について子ども達の感想を聞いてみる。</p> <p>・どんな宝物を発見したかな？</p> <p>・どんな気持ちだったかな？</p> <p>*子ども達の話しに耳を傾けて、宝物についての話を楽しむ。</p>	

## 8 授業仮説の検証

### (1) 授業仮説①の検証

- ・ 五感を通して自然にふれる活動を設定することでじっくりと自然にかかわり、発見や感動を味わうであろう。

#### 【結果】

- ビンゴカードに書いてある宝物を探す場面において、耳に手をあてて音を聴いたり、草花に顔を近づけて匂いを嗅いだり、木の幹を触り比べて感触を確かめたりしていた。
- 宝物を見つけると「あった。」「見て見て。」「本当だいい匂いがするね。」と発見を喜んだり、「葉っぱのトンネルだ。」「バッタここにもいた一。」と感動し、くり返しふれる姿が見られた。

#### 子どものつぶやき・行動

触ってみて これふわふわしている  
動いているから音なっているかも  
くさーい 顔を近づけている  
ぼよんぼよんって  
(ジャンプしてカエルの動きを表現している)

- 匂いがする葉っぱという問題を通して見つけた宝物(自然物)にふれることで、「これツルツルしている。」「ざらざらしているよ。」と匂いだけでなく草花の違う特徴に気づく子もいた。



図8 宝物を見つけてシールを貼っている

#### 【考察】

- 見る、触る、聴く、嗅ぐと五感を使って自然にふれる活動を設定したことで、子ども達は様々な角度から自然にふれ、宝物を見つけると友だちや教師に言葉や体で表現して伝え合う姿

が見られた。ビンゴゲーム(図8)を通して発見する楽しさや感動を味わうことができたのではないかと考える。

### (2) 授業仮説②の検証

- ・ 自分たちでビンゴの宝物を考えることで、より興味を持って活動に取り組むであろう。

#### 【結果】

- ビンゴゲームの問題を考える過程において、実際に宮城の森に行き、チクチクするものや洋服にくっつくものなど様々な自然物を発見し、問題作りを工夫していた。

#### 子ども達が考えた問題 (一部抜粋)

ピンクの線がある葉っぱ・まるいもの  
踏むと音になる葉っぱ・笛ができる花  
コオロギ・いい匂いの花・黄色い葉っぱ  
鳥の声・ゲームができる葉っぱ  
木の実・洋服にくっつくもの・風の音

- 「ドラゴンボールグループにいい問題。」「バラグループよりって書いてあるけど、だーれ?」「はなグループ(自分たちが出題した問題)だけ難しくて、俺たちの簡単さ。」と、他のグループが考えた問題に興味を示している子もいた。
- 男の子の半数がバッタやコオロギまたは、ビンゴカードの問題に関係なく興味のあるものだけにかかわっていた。
- 11月27日(月)に行った『おにわのビンゴ』ゲームの活動と比べ、問題を見てどの感覚を使って探すのかが分かり、自分たちで探し始めるグループが多く見られた。

#### 【考察】

- 問題を考えるために実際に宮城の森に行き、触ったり、匂いを嗅いだりと自分で試してみながら宝物を探し問題作りをしたことで、どの感覚で探すのかが分かり、第一回目のビンゴゲームに比べ自分たちで探し始めるグループが多く見られた。問題作りをすることで、興味を持って活動に取り組むことができたと考えられる。



## Ⅷ 研究の考察

### 1 作業仮説 (1) の検証

- 直接体験が多く持てるような年間指導計画を作成し、活動を展開することで、自然への興味関心を広げていくことができるであろう。

#### (1) 手立て

- どのような自然体験ができるのか図鑑等を調べたり、教師自身が実際に園内外の自然を散策し、年間指導計画を作成した。
- 保育実践では指導計画の中から、みやぎの森の探検とフィールドビンゴ（おにわのビンゴ・みやぎの森のビンゴ）と取り上げ活動を展開した。

#### (2) 結果

##### ① 検証保育1より

くり返し探検に行くことで宮城の森に興味を持ち、木々の変化や面白さに気づいたり、昆虫に触れることを楽しんでた。また、松葉のすもうで遊ぶ際に、教師が「どうしてすぐに切れちゃうのかな？」と、意図的に発した言葉をきっかけに、どうしたら葉っぱが切れないのか試したり、自分なりの答えを見つけ出す子も見られた。その時の子どもの様子は下記の通りである。

#### 子ども達の考え・工夫している姿

何回も使ったからぼろくなったんだよ  
ゆっくり引っ張ると切れないよ  
わかった。ちゃんとくっついているものが  
勝つんだよ（探し始めている）  
3つにしたもんね（松葉を重ねている）  
緑のものはどうかな（試している）  
緑のは弱いよ



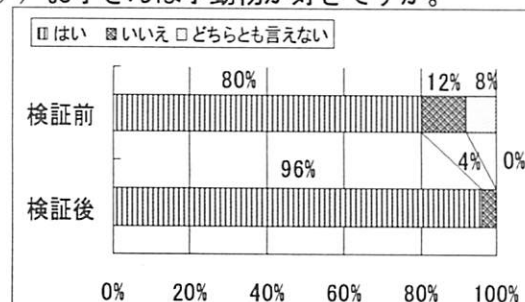
図9 においがする葉っぱを見つけて伝えている

##### ② 検証保育2より

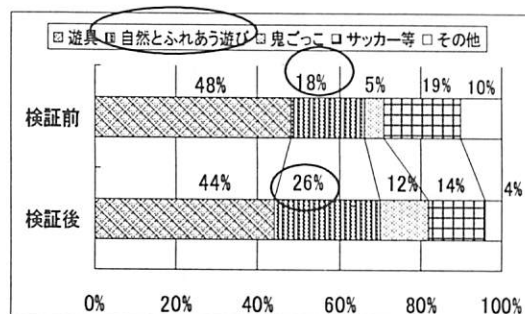
ビンゴゲームでは問題になっている宝物を探すために、匂いを嗅いだり、触ってみたりと様々な感覚を通して自然にふれ、発見すると友だちや教師に伝えていた。（図9）

##### ③ 検証前後のアンケート結果より

#### ア) お子さんは小動物が好きですか。



#### イ) 公園ではどのような遊びをしていますか。



小動物が好きな子が80%から96%にまた、公園で自然とふれあう遊びをする子が18%から26%に伸びている。

##### ④ 保護者の声より（アンケート回答内容）

#### お子さんの自然へのかかわりについて

##### ご意見・ご感想をお聞かせ下さい

- ・私自身、虫が嫌いでダンゴムシも触れないのですが、幼稚園に行くようになって〇〇〇がダンゴムシを捕まえて遊んでいるので、たくましくなったなと思います。
- ・今までは全然虫に興味なかったのですが、宮城の森が好きらしく、よくお話してくれます。パソコンで虫（カマキリやバッタ）の生源地などを見たりします。触ることができなくても、興味があるのは嬉しいですね。
- ・クラスで育てた青虫がチョウになった話などを教えてくれます。今の時期に生き物と触れ合うことはいい事だと思います。

### (3) 考察

- ① 自然とどう出会わせるか、どのような体験ができるのかを踏まえ、直接体験が多く持てるような指導計画を作成し、活動を展開していった。

その中で子ども達は、くり返し探検に行くことを楽しみ、昆虫にふれ、木々の変化や自然物のもつ面白さ不思議さに気づき、五感を通して様々な自然物を発見するなどの姿が見られた。

また、検証前後のアンケート結果を見ると、公園で自然とふれあう遊びが 18%から 26%となっている。さらに、保護者の感想にもあるように虫が嫌いだった子が触れるようになったり、パソコンで昆虫のことを調べたりする姿が見られるようになったことから、身近な自然への興味関心が広がってきたのではないかと考える。

## 2 作業仮説 (2) の検証

- ・ 試したり、確かめたりできるような環境作りや教材・教具の工夫をすることで、自然とのふれあいを楽しみ、発見や感動を味わうことができるであろう。

### (1) 手立て

- ① 身近な自然に興味を持てるように自然に関するクイズを作成する。問題を作成する際にまた行きたくなるような、実際に試してみたいような内容を考える。
- ② くり返し自然にふれることができるようにビンゴカードを作る際に子ども達が問題を考える活動を取り入れる。
- ③ 触れたり、匂いを嗅いだり、味わったりできるような草花や野草を植える。
- ④ チョウの幼虫が変化していく様子が観察できるように食草を植え、くり返し観察したり、図鑑と見比べることができるように室内に自然コーナーを作る。(図 10)



図 10 自然コーナー

### (2) 結果

#### ① 検証保育 1 より

子ども達はクイズの内容をよく覚えており、二日目の探検では、クイズの題材になった葉っぱや木を探す姿が多く見られ、「ここにあったよ。」「本当にツルツルしている。」と見たりふれたりして確かめていた。

#### ② 検証保育 2 より

五感を使って探すビンゴゲームの問題を子ども達が考えることができるように、カードの上にマーク（目、耳、手など）を書いたことで、問題作りの中でも発見を楽しみ、「これはちくちくするものだね」等と、具体的な言葉で表現していた。

#### ③ チョウの観察より

チョウが変化していく様子が間近で観察できるように、食草を鉢ごと室内に移動し観察コーナーを作る。始めは興味を示さなかった子も、友だちが観察して見つけたことを聞く中で少しずつ目を向けるようになっていった。(図 11)

くり返し観察する中で、幼虫の変化に気づいたり、図鑑を持ってきて見比べている子もいた。



図 11 カバマダラの幼虫が蛹になる様子を観察している

(3) 考察

- ① 教材・教具を作る際、まず子ども達が身近な自然に興味を持てるよう、また、試したり確かめたりできるように工夫した。子ども達は自然クイズやビンゴカード（問題）作りに興味を持って取り組み、実際に見たり、触れたりして確かめ発見する楽しさを味わうことができたと考える。
- ② チョウなどの昆虫も教材と捉え、観察コーナーを設けることで子ども達はくり返しかわり、成長する過程を目にし、驚きや喜びを伝え感動を味わうことができたと考える。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 自然体験に関する年間指導計画を作成し、直接体験が多く持てるような活動を展開したことで、身近な自然への興味関心が高まっていった。
- (2) 教材・教具の工夫をすることで様々な角度から自然にふれ、発見する喜びを味わうことができた。
- (3) 教師も子ども達と一緒に自然にふれあい、疑問や不思議に感じたことを言葉にして投げかけたことで、くり返し試したり、考えたりするが見られ、探究心が芽生えてきた。教師の援助や感動を共有する仲間の存在が大切であることが分った。

2 課題

- (1) 作成した自然体験に関する年間指導計画を基に保育実践を行う中で評価、反省を重ね、子ど

も達の発達段階や姿に合わせて改善を図っていききたい。

- (2) 自然とのかかわりを楽しみ、子ども達の豊かな心情を育むため、家庭との連携を図っていききたい。
- (3) 直接体験が多く持てる、魅力のある環境作りにこれからも力を入れていきたい。

おわりに

「子どもたちがであう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。』『センス・オブ・ワンダー』の一説ですが、とても心に響きます。本研究の中で、私自身も子ども達と一緒に心を動かし、感動を味わうことができました。半年間の研究の中で学んだ理論や実践をこれからの保育の中で生かしていき、さらに深めていきたいです。

研究期間中、励ましご指導下さいました浦添市教育委員会の山城信子指導主事、牧港幼稚園の平田輝代美先生、本研究所の比嘉信勝所長、石川博基係長、比嘉清喜指導主事に深く感謝申し上げます。職員の皆様にもお世話になりました。また、テーマ検討会等で様々な角度からご助言下さいました浦添市委員会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

最後に、研究の機会を与え支援して下さいました宮城幼稚園の池間生子園長はじめ、いつも温かく声をかけて下さった諸先生方、半年間の研究を共に支えて下さった、研究員の先生方に感謝申し上げます。

《主な参考・引用文献》

・文部省	『幼稚園教育要領解説』	平成 11 年
・小田 豊・湯川秀樹	『保育内容 環境』	北大路書房 2003
・湯川秀樹	『好奇心・探究心を育てる』	初等教育資料No.726 (10月号) Pp. 82-88.
・国立教育政策研究所	教育課程研究センター	
	『幼児期から児童期への教育』	平成 17 年
・レイチェル・カーソン	上遠恵子訳	
	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社 1996
・神長美津子	『保育の基本と環境の構成』	ひかりのくに 1998
・中村伸子	『いきいきわくわく園外保育』	フレーベル館 2005
・降旗信一	『親子で楽しむネイチャーゲーム』	善文社 1992
・いじゅの会	『親子で見る身近な植物図鑑』	沖縄出版 1990
・月刊 保育とカリキュラム		ひかりのくに 2004・2006